

# お薬のしおり

## 点鼻薬・点耳薬の使い方 No.74 (H19.11)

東京医科大学病院 薬剤部

皆さんは、点鼻薬・点耳薬の正しい使い方について知っていますか？点鼻薬は鼻に、点耳薬は耳に直接使用するもので、耳鼻咽喉科で処方されることの多いお薬です。また、薬局やドラッグストアなどでも市販薬が売られており、使用されたことのある方も多いかもしれません。そこで、今回はお薬を効果的に使用していただくために、正しい使用方法をご紹介します。

点鼻薬は薬効成分を鼻の粘膜から直接吸収させるお薬です。鼻への局所的な効果や、お薬によっては全身的な効果を期待して使用されます。種類としては、鼻炎症状のときに使用する抗炎症薬や、さらに症状の強いときや花粉症などのアレルギー性鼻炎に使用する抗アレルギー薬や抗炎症ステロイド薬などがあります。また、使用方法別に、ほたほたと薬液を滴下するタイプのものと、薬液を霧状に噴霧するタイプのものがあります。

点耳薬は、主に耳に起きた炎症や感染症の起きている部分に直接作用させ、局所的な治療目的で使用します。種類には、抗炎症ステロイド薬や抗生物質などがあり、薬液を耳に滴下して使用します。

点鼻薬、点耳薬の使い方ですが、まずは手を洗います。清潔な状態でお薬を取り扱うことが大切です。

滴下するタイプの点鼻薬でしたら、

- ①鼻をかむなど鼻腔内の汚れを取り除きます。
- ②頭を後ろに傾げるなどして、頭が後ろに傾くようにします。
- ③容器の先をほんの少し鼻の中に入れ、薬液を 1~2 滴落とします。

このとき、容器の先が鼻の内側に触れないように注意します。

- ④2~3 分間、そのままの姿勢を保ち、薬液が鼻の粘膜にひろがるようにします。

鼻の外に薬液が流れ出たときは、拭き取ります。

噴霧タイプの点鼻薬も、

- ①鼻腔内の汚れを取り除き、
- ②頭を少し後ろに傾けます。



③容器の先をほんの少し鼻の中に入れ、他方の鼻孔を押さえて、息を吸い始めると同時にそれぞれの容器の使い方によりお薬を噴霧します。このとき、容器の先が鼻の内側に触れないように注意します。

点耳薬を使用するとき、冷蔵庫に保存しているお薬を冷たいまま使用すると、「めまい感」を起こすことがあります。使う前に容器を手で握り、できるだけ体温に近い温度まで温めてから使用すると、「めまい感」が起こるのを抑えることができます。

点耳薬を使用する前には、

- ①耳あかなどを取り除きます。
- ②お薬をさす耳が上向きになるように頭を傾げるか、または横向きに寝た姿勢になります。
- ③耳たぶを後ろに引っ張るようにして、指示された滴数の



お薬を耳の中に滴下します。このとき、容器の先端が耳の内部に触れないようにします。

お薬が流れないように、お薬を入れた後、姿勢をそのまま保ちます。2～3滴のお薬を滴下し、2～3分間姿勢を保つ使用法を「点耳」といいます。また、もう少し多めのお薬を滴下して5～10分間姿勢を保つ「耳浴」という方法もあります。頭をもとに戻したときにお薬が流れ出た場合はふき取ります。自分でさすことが難しい場合は他の人にさしてもらいましょう。

滴下するタイプの点鼻薬・点耳薬の容器の形は、点眼薬の容器とよく似ています。また、液体タイプの水虫の薬にも、容器の形が似ているものがあります。

点鼻薬や点耳薬を間違えて眼に入れないようにするために、点眼薬の近くに置かないことや、お薬を使う前は必ず容器に書かれているお薬の名前をもう一度確認することが大切です（特に、点眼薬と似ているお薬には赤いワクの中に赤い文字で「目に入れない」などの注意書きがあります）。

中には薬効成分は同一で、点眼薬と点耳薬の2種類が存在するものもあります。このようなものは、成分は同じでも、点耳薬には殺菌消毒剤などが加えられていますが、点眼薬には眼への刺激性のあるものは加えていないという添加物の違いや、薬効成分の濃度の違いなどがある場合があります。このため点眼薬を点耳薬等に、点耳薬等を点眼薬には代用できないこともありますので、使用の際は注意しましょう。お薬は正しく使用してこそしっかりとした効果があらわれます。